

令和7年度 認定こども園岡本の取り組みと評価

令和8年3月17日

この度、今年度の保育や活動を振り返り、職員が自己評価を行いました。それぞれの評価結果を踏まえて、成果や課題、改善方策などを話し合い、園評価としてまとめました。この結果を受け止め、保育活動の充実や職員の資質向上に努めていきたいと思えます。

Ⅰ 教育・保育活動の成果

① 成果

(1) 環境による教育・保育

『子どもの好きを見つけよう！広げよう！つなげよう！』をテーマに遊びや環境について「みんなでわくわくさがし」と称し、話し合いを重ねてきました。各クラスや異年齢保育での遊びや子どもの姿を共有しながら、保育者も子どももわくわくするような遊びや環境のアイデアを考え合い、それを実践することで、共に育ち合い、学び合うことを大切にしてきました。

7月には、公私立の保育者や大学の先生を招き、保育を語り合い、子どもの学びを共有し合うことで保育の質の向上を目指すことができました。その後も保育者との安定・安心の関係を基盤に、色、大きさ、形、感触の異なる様々な素材に触れたり、発達の連続性を意識しながら、それらを自ら選び遊んだりできるような環境を整えてきたことで、子どもの主体的に遊ぶ姿につながっています。また、担任間で連携を図りながら異年齢での関わりを意図的にもち、一緒に遊んだり、教えたり、教えられたりする中で、集団活動を通してお互いに刺激を受け合い、思いやりや社会性、主体性といった力を育むことができるようにしてきました。

(2) 食育について

夏野菜や冬野菜の栽培を通して、野菜の生長に興味をもったり、自分達で収穫した野菜を給食で食べたりする機会をもってきました。また、保護者にも栽培や収穫の様子、子どもに人気の給食レシピなども紹介することで、食への関心が高まりました。

(3) 危機管理について

警察の方に来ていただき、不審者侵入時を想定した訓練を行いました。不審者の予測できない行動をいかに職員間で情報共有しながら、子ども達の安全を守ることができるか、それぞれの職員の冷静な対応が求められ、緊張感をもって訓練を行いました。

全職員が南越消防組合の救急救命士より心肺蘇生法やAED、気道異物除去などの講習を受け、知識と技術を学びました。子どもの命を預かる者として、日々、緊張感をもちながら保育を行っていくことを改めて感じ、危機管理に対する意識が高まりました。

(4) 保護者との連携について

今年度も保育参加後に「おしゃべり会」の時間をもち、日頃、あまり顔を合わすことのない保護者同士が話したり、悩みを共有したりすることで、保護者同士がつながるきっかけになりました。保護者からも先輩ママの話を聞くことができ、安心感を感じたり、勇気づけられたりしたよい時間だったとの感想をいただきました。

運動会、遠足について保護者にアンケートを行ったところ、開催時期や内容など複数の意見をもらうことができ、保護者も参加しやすく、子どもにとってよりよい環境のもと、様々な経験ができるよう検討し合うことができました。

(5) 小学校との連携や地域との交流について

マラソン大会の応援に行ったり、学習発表会の予行を見学したりすることで、小学校生活に親しみや期待をもつ姿につながっています。また、ドキュメンテーションを小学校や公民館に掲示してもらうことで、小学校の先生や地域の方々にも園の様子を伝えることができ、遊びの中から学ぶ姿や生活科や学習へつながる遊びを知ってもらう機会になりました。

地域の祭りの準備の様子を見に行ったり、実際に祭りに行った子どもから話を聞いたりして、歴史や文化に触れたことで、この地域ならではの遊びにつながっていきました。



② 課題

- ・自分達の保育を振り返り、適切な言葉掛けや支援を全職員で共通理解して、職員一人一人の意識が高まるようにしていく。
- ・子ども一人一人の興味や関心を大切にしながら、「わくわく」するような遊びや環境を保障し、主体的な遊びが継続していくよう取り組んでいく。
- ・小学校や地域に園の活動や子どもの学びについて知ってもらうと共に、一緒に活動する中で関係が深まるようにしていく。

2 来年度の園経営、教育・保育活動における改善策

- ・定期的に不適切保育についての研修を行い、子どもの心に寄り添った保育を心掛け、保育者自身が保育を楽しむことができるように努めていきます。
- ・引き続き、遊びや環境について話し合いを継続することで、全職員で共通理解しながら一人一人の子ども理解につなげ、安心して遊べる環境、主体的に遊べる環境を整えていきます。
- ・小学校の先生に保育参加・参観してもらい、子どもの姿の見取りをしたり、学習の中にこども園と関わる機会をもってもらうことができるよう小学校と一緒に接続会議で検討していきます。また、地域の組織や人材を活かし、一緒に避難訓練をしたり、地域の文化に触れたりできるような機会を取り入れていきます。